

# 創刊150号を迎えて

～90年の歴史を振り返って～

In Commemoration of 150th Issue-  
reviewing its 90 Years' History

取締役  
R&D 本部 CM 研究所長  
米原洋一

Yoichi  
Yonehara



平素より『塗料の研究』をご愛読いただき誠にありがとうございます。存じます。この『塗料の研究』は今号をもちまして第150号を迎えることができました。皆様のご支援・ご鞭撻の賜物と感謝しております。この記念すべき第150号発刊にあたり、小誌の歴史を簡単にご紹介したいと存じます。小誌の歴史については、今から31年前の創刊第100号の巻頭言にも詳しく紹介されておりますが、時間も経過しておりますので、重複を承知で紹介させていただきます。

今回第150号を迎える『塗料の研究』の第1号は、第二次世界大戦後間もない1950年(昭和25年)に『特約店旬報』の名称で発刊されました。その後、第3号より技術に関する事項も掲載されるようになり、名称も『関西ペイント時報』に改められました。1952年(昭和27年)の第10号からは、それまでの右綴じから左綴じに変更され、さらに1953年(昭和28年)の第12号から『塗料の研究』に改称され、文字通り塗料に関する技術情報誌として現在に至っております。

しかしながら、これはあくまで戦後に発行された『塗料の研究』の経過であり、その第1号の巻頭言において、当時の菅原常務は、戦争により『塗料の研究』ならびに『特約店旬報』の二誌の刊行を中断せざるを得なかったことの無念さを述べ、復刊を心より歓迎する旨を記しています。すなわち、『塗料の研究』はそのルーツを大正時代にまで遡ることができます。戦前の『塗料の研究』は、1918年(大正7年)に発刊された『関西ペイント商報』を原点としており、

同誌は1925年(大正14年)の第30号より『塗料の研究』に改称されました。その後、戦争の激化により1943年(昭和18年)の第123号を最後に休刊するまで、26年間にわたり、年に5回ほどのペースで発刊されております。現在と異なり情報の乏しい時代に、本誌を通じ販売店やユーザーの皆様とのコミュニケーションを図りたいという先輩諸氏の強い思いと意気込みが感じられます。

残念ながらこうした戦前の『塗料の研究』はその多くが散逸しており、現在では一部しか見ることができませんが、休刊前最後の号となった1943年(昭和18年)の第123号では、巻頭に「重要資材を塗料で護れ!闘ひつつ建設へ」と大きな見出しが躍り、空襲に備えての「防空塗料」、「迷彩塗料」の紹介や「鉄壁・銃後の生産陣」の宣伝写真など、一企業の広報誌にまで戦争の影響が色濃く反映されていることがわかります。

『塗料の研究』の歴史を顧みるに、平和な時代に生きることの幸福さと先輩方の熱き思いに感謝の念を覚えずにはいられません。急速に進展する国際化、さらに重要性を増す環境保全への配慮、高騰を続ける原油価格など、私どもに課せられた課題は簡単なものではありませんが、90年にもおよぶ『塗料の研究』の歴史を踏まえ、皆様に愛され必要とされる新製品をいち早くこの『塗料の研究』でご紹介し続けることが、私どもの責務であると痛感する次第です。

より一層のご支援とご鞭撻をお願い申し上げます。